

## ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。

本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

1：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウェブサイトをご参照ください。<http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html>

2：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。<http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html> に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

3：本書に記載の付属品・オプションアクセサリ・定格などは予告無く変更されている場合があります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

その他、動作や操作に関する良くあるお問い合わせは：

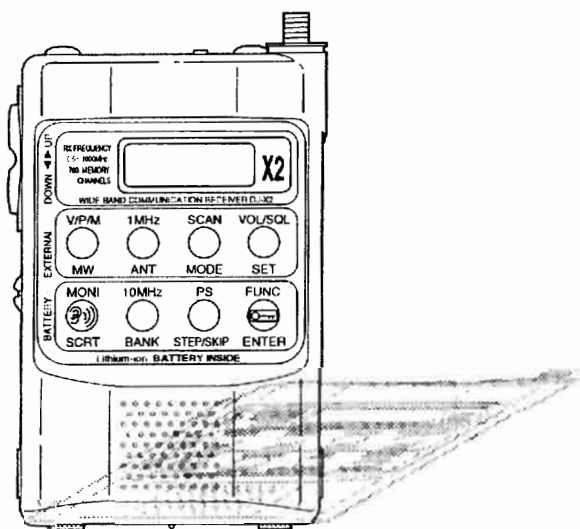
<http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html> のFAQページをご覧ください。

# ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

# DJ-X2

## 取扱説明書



アルインコ ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

## アルインコ株式会社

盗聴機発見機能	26
キーロック機能	27
リセットのしかた	28
クローン機能	29
バッテリー表示機能	31

### 第3章 エキスパートモードを使いこなそう

エキスパートモードへの切り替え	32
メモリー機能	33
メモリーの種類と使い方	33
チャンネルの登録	33
チャンネルの呼び出し	35
チャンネルの消去	35
アンテナの設定	36
522～1620kHzを除く周波数帯の場合	36
522～1620kHzの周波数帯の場合	37
電波型式の設定	37
チャンネルステップの設定	38
メモリスキップ機能	39
音声反転秘話機能	40
セットモード機能	41
各項目の設定方法	41
ATT(アッテネータ)機能	42
バンクリンク設定	42
BEEP(ビーブ音)機能	43
LAMP(ランプ)機能	43
タイマースキャン/ビジースキャン設定	44
BS(バッテリーセーブ)機能	44
APO(オートパワーオフ)機能	45
盗聴機発見機能の感度設定	45
メモリー上書き設定	46
PRIO(プライオリティ)機能	46

### 第4章 付録

トラブルシューティング	47
アフターサービスについて	48
定格	49
操作早見表	50

## DJ-X2 の特徴

DJ-X2は、小さなボディに多彩な機能を搭載したワイドバンドレシーバーです。使いやすいシンプルなキー配列、簡単なキー操作で、広帯域のコミュニケーションメディアをワイドに体験できます。

DJ-X2には次のような特徴があります。

### 外付け電池不要で小型軽量

DJ-X2は本体内にリチウムイオン電池を内蔵していますので、外付けの電池がなくてもお使いになれます。また、付属の乾電池ケースを取り付けて、単3乾電池でもお使いになれます。

詳細は、「付属品について」(P.10)をお読みください。

### 2つの操作モード

DJ-X2には、キー操作の範囲が少なく簡単に操作できる「イージーモード」と、多くの機能を搭載した「エキスパートモード」の2つの操作モードがあります。

詳細は、「イージーモードとエキスパートモード」(P.17)をお読みください。

### 多彩なメモリー機能

通常の呼び出しに使うメモリーチャンネルの他に、スキャンする範囲の上限・下限を設定できる「プログラムチャンネル」や、2つの周波数を交互に受信できる「プライオリティーチャンネル」など、多彩なメモリー機能を搭載しています。

詳細は、「メモリー機能」(P.33)をお読みください。

### 盗聴機を探知

盗聴機で使われそうな周波数を探知する機能があります。盗聴機があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。

詳細は、「盗聴機発見機能」(P.26)をお読みください。

### 秘話を再生

音声反転秘話機能で音声を反転している信号を元に戻す機能です。

詳細は、「音声反転秘話機能」(P.40)をお読みください。

## 電波法上のご注意

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密に関して定められています。本機の取り扱いには十分配慮し、電波法を守って下さい。

## お願いとおことわり

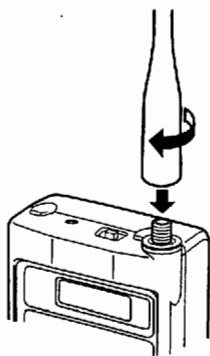
- ・本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万が一、ご不審な点やお気付きの点がありましたら、出来るだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡下さい。
- ・本機は広帯域受信機ですので、本体の内部発振(スプリアス)により、受信出来なかったり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- ・この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。

## 付属品について

DJ-X2には、次のものが付属しています。ご確認ください。

- ・アンテナ
- ・充電器付き乾電池ケース(EDH-27)
- ・ACアダプター(EDC-75)
- ・イヤホン
- ・簡易操作シール
- ・コネクターキャップ

### ■アンテナの取り付け



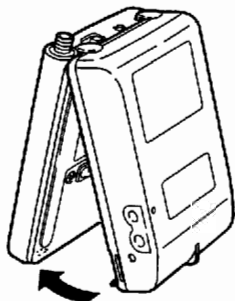
アンテナはDJ-X2本体右上のSMA型アンテナコネクターに取り付けます。アンテナの根元を持ち、図のように時計方向(右)にゆっくり回します。

取り外すときは、反時計方向(左)に回します。

### ■内蔵充電電池の充電

本体内蔵のリチウムイオン電池の充電には、付属の充電器付き乾電池ケース(EDH-27)とACアダプター(EDC-75)を使います。

- 1 DJ-X2本体にEDH-27を取り付けます。



乾電池ケース上部のツメをDJ-X2本体の上面の溝に合わせてから、図のようにEDH-27の下部を本体に取り付けます。

**2** ACアダプターのACアダプタープラグを、EDH-27の外部電源ジャックに差し込みます。

**3** 電源プラグを家庭用電源AC100Vのコンセントに差し込みます。  
EDH-27の充電表示ランプが点灯し、充電を開始します。



#### メモ

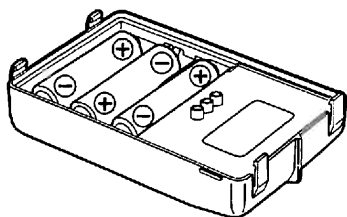
- ・充電には約2時間かかります。(リチウムイオン電池の消費状態により異なります。)
- ・充電時は、内蔵/外部バッテリー切り替えスイッチの位置は「EXTERNAL」、「BATTERY」のどちらでもかまいません。
- ・通常の使用で約500回の充電が可能です。



#### 注意!

- ・充電時は、必ずDJ-X2の電源をOFFにしてください。
- ・充電しないときは、ACアダプターをコンセントから外しておいてください。
- ・他社製品の充電などには、絶対に使用しないでください。
- ・充電端子を金属片などで短絡させると、本体にダメージを与える場合があります。
- ・AC100Vが著しく低下すると充電できないことがあります。
- ・充電は0℃～40℃の範囲でおこなってください。

## ■乾電池のセット



DJ-X2 は、内蔵充電電池のほかに単 3 アルカリ乾電池でも使用できます。充電器付き乾電池ケース(EDH-27)に、アルカリ単 3 乾電池を図のようにセットします。



### 注意!

- ・電池の極性を間違えないようにしてください。
- ・電池交換時は、3 本とも新しい乾電池を使用してください。また、乾電池は 3 本とも同じ種類のものを使用してください。



### メモ

オートパワーオフ機能(P.45)、バッテリーセーブ機能(P.44)を使うと電池が長持ちします。

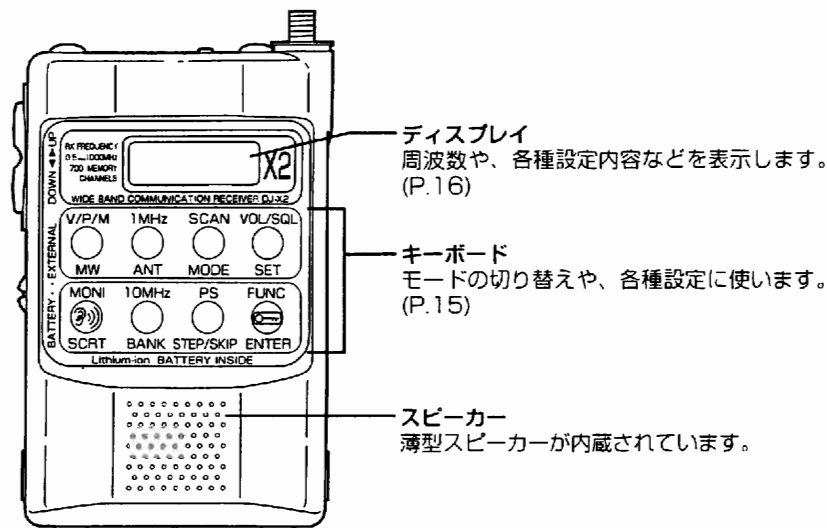


# 第 1 章 各部の名称と機能

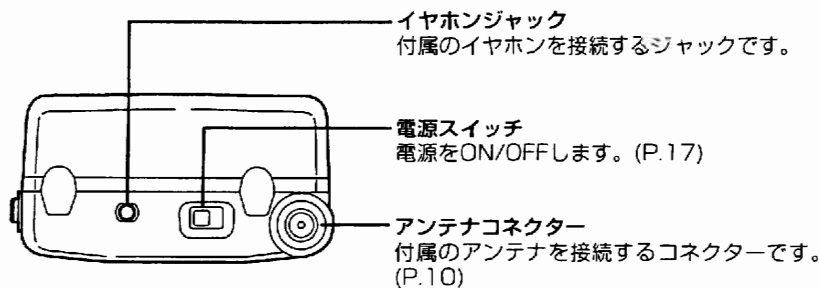
## 外觀図

図は、充電器付き乾電池ケース(EDH-27)を付けた状態です。

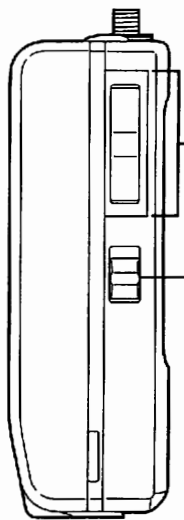
### ■前面部



### ■上面部

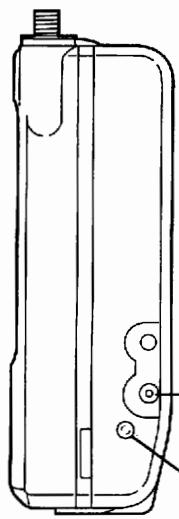


■側面部



[▲/▼]キー  
周波数の増減や、各種設定に使用します。

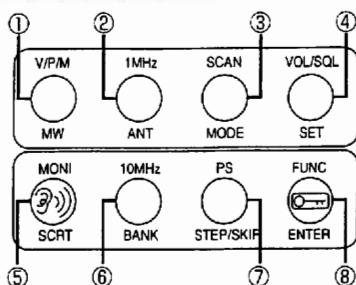
バッテリー切り替えスイッチ  
内蔵/外部(EDH-27)のどちらのバッテリーを使うかを切り替えるスイッチです。



外部電源ジャック  
内蔵リチウムイオンバッテリーの充電時に、ACアダプターを接続します。

充電表示ランプ  
内蔵リチウムイオンバッテリーの充電中に点灯します。

## キー配置



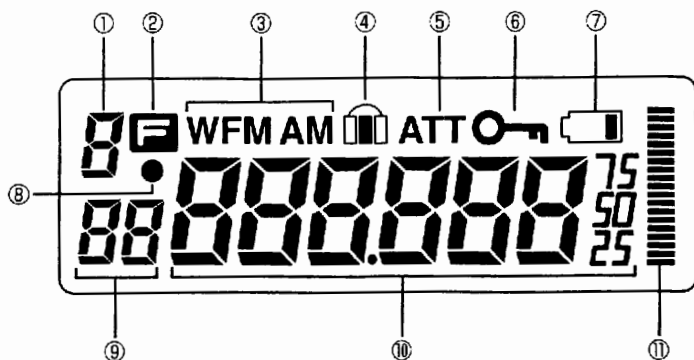
	キー名称	機能
①	[V/P/M (MW)]キー	運用モードを切り替えます。(P.20) F点灯状態では、メモリーの書き込み、消去に使用します。(P.33)
②	[1MHz (ANT)]キー	VFOモードで周波数を調整するとき、押しながら[▲/▼]キーを押すと、1MHz単位で周波数を増減します。(P.21) F点灯状態では、使用するアンテナを切り替えます。(P.36)
③	[SCAN (MODE)]キー	スキャンを実行します。(P.22) F点灯状態では、電波型式を切り替えます。(P.37)
④	[VOL/SQL (SET)]キー	音量、スケルチレベルを調整します。(P.18) F点灯状態では、セットモードの項目を切り替えます。(P.41)
⑤	[MONI (SCRT)]キー	押ししている間スケルチが開きます。(P.19) F点灯状態では、音声反転秘話機能に使用します。(P.40)
⑥	[10MHz (BANK)]キー	VFOモードで周波数を調整するとき、押しながら[▲/▼]キーを押すと、10MHz単位で周波数を増減します。(P.21) プリセット、メモリーバンクを切り替えます。
⑦	[PS (STEP/SKIP)]キー	プログラムスキャンのチャンネル選択と開始に使用します。(P.23) F点灯状態では、チャンネルステップ、メモリースキップの設定に使用します。(P.38、39)
⑧	[FUNC/ENTER]キー	各種設定の開始と決定に使用します。 キーロック機能に使用します。(P.27)

「F」点灯状態とは、[FUNC/ENTER]キーを押して、ディスプレイの左上に「F」を点灯させた状態です。

イーजीモードでは、キーロック機能以外に[FUNC/ENTER]キーは使用できません。

## ディスプレイ

図は全ての表示が点灯した状態です。



説明	
①	メモリーのバンクNo.を表示します。
②	各種設定時に[FUNC/ENTER]キーを押すと点灯します。
③	電波型式を表示します。
④	メモリースキップ機能設定時に点灯します。
⑤	アッテネーターがONのときに点灯します。
⑥	キーロックされているときに点灯します。
⑦	電池の残量が少なくなると点灯します。
⑧	盗聴機発見機能動作時に点灯します。音声反転秘話機能動作時には、点滅します。
⑨	メモリーのチャンネルNo.を表示します。
⑩	周波数や各種設定内容などを表示します。
⑪	信号の受信レベルを表示します。

ディスプレイにアルファベットを表示する場合、「M」や「K」など一部正確に表示できない文字があります。また、ひとつの単語内に大文字、小文字が混在する場合があります。次の例をご参照ください。

MEMor-y ..... MEMOrY

L lnk ..... Link

# 第 2 章 DJ-X2を使ってみよう

## イージーモードとエキスパートモード

DJ-X2には、キー操作の範囲が少なく簡単に操作できる「イージーモード」と、多くの機能を搭載した「エキスパート(Pro)モード」の2つの操作モードがあります。

イージーモードは、無線機の取り扱いに慣れていない方や、初めてDJ-X2をお使いになる方におすすめするモードです。

エキスパートモードでは、受信やスキャンに関する詳細な設定ができ、イージーモードよりいろいろな操作や機能が楽しめます。

(初期設定はイージーモードです。)

DJ-X2を初めてお使いになる場合は、まずイージーモードで基本的な操作を理解した上で、エキスパートモードでいろいろな機能をお楽しみください。

この章では、イージーモードでの基本的な操作について説明します。

## 電源スイッチ

まず、DJ-X2の電源をONにしてみましょう。

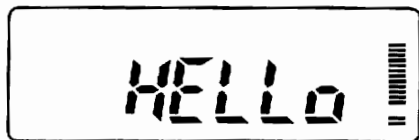
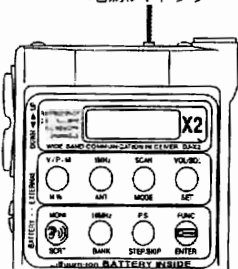
電源をONにする前に、内蔵/外部バッテリー切り替えスイッチの位置を確認してください。

EXTERNAL 側(上)……………乾電池(EDH-27)を使う場合。

BATTERY 側(下)……………内蔵リチウムイオン電池を使う場合。

DJ-X2 本体上部の電源スイッチを PWR ON 側(右)にスライドさせると、電源が入ります。ディスプレイに「HELLO!」と表示されます。

電源スイッチ



### メモ

内蔵リチウムイオン電池が充電されている場合は、乾電池ケースを外した状態でも使えます。



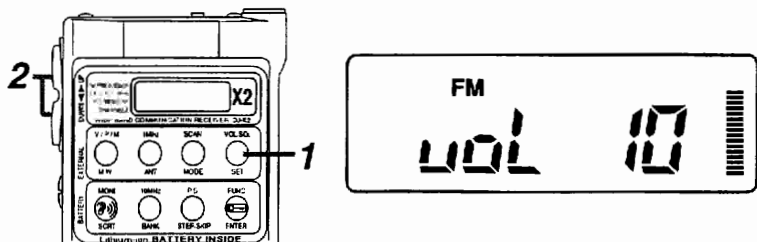
### 注意!

内蔵/外部バッテリー切り替えスイッチを切り替えるときは、必ず電源をOFFにしてください。

## 音量の調整

次に、音量を調整します。手順は次のとおりです。

- 1 [VOL/SQL (SET)]キーを押します。  
ディスプレイに「vol」 と表示されます。
- 2 [▲/▼]キーで音量を調整します。  
0～20の21段階で調整できます。数字が大きくなるほど音量が大きくなります。



- 3 [FUNC/ENTER]キーを押します。

### 音が出ないときは？

スケルチが閉じている場合は、音量の数字を大きくしても受信音は聴こえません。詳細は、次の「スケルチの調整」をお読みください。

## スケルチの調整

スケルチとは、一定レベル以上の信号を受信したときのみ、スピーカーから音を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから出る雑音をカットでき、待ち受けしやすくなります。

スケルチが動作している状態から、信号を受信し受信音を出す状態になることを「スケルチが開く」といいます。逆の場合を「スケルチが閉じる」といいます。

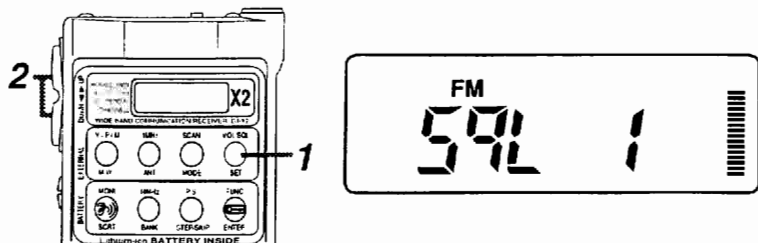
### ■スケルチレベルの設定

スケルチはレベルを設定することにより、どの程度の信号を受信したときにスケルチが開くかを調整できます。手順は次のとおりです。

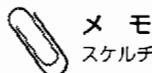
- 1 [VOL/SQL (SET)]キーを2回押します。  
ディスプレイに「Sql」と表示されます。

## 2 ▲/▼キーでスケルチレベルを調整します。

0～5の6段階で調整できます。数字が大きくなるほどスケルチが開きにくくなります。



## 3 [FUNC/ENTER]キーまたは[VOL/SQL (SET)]キーを押します。



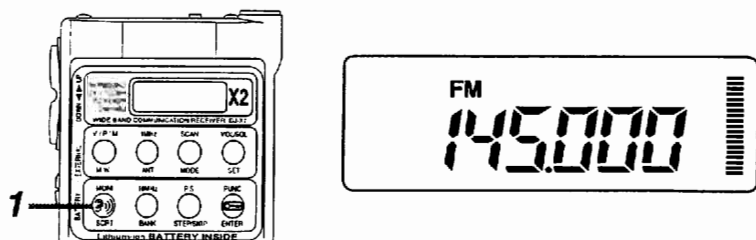
スケルチを常時開いた状態にしたいときは、スケルチレベルを「0」にします。

### ■モニター機能

スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱かったり音が途切れるときに、設定されたスケルチレベルにかかわらず、一時的にスケルチを開きます。

## 1 [MONI (SCRT)]キーを押します。

押している間、スケルチが開きます。



## 2 [MONI (SCRT)]キーを離すと、再び設定されたスケルチレベルに戻ります。

これで、信号を受信するための準備ができました。次は、実際に周波数を合わせて、信号を受信してみましょう。

次のセクションでは、DJ-X2が持つ3つの運用モードについて説明します。

2 DJ-X2 を使ってみよう

## 3つの運用モード

DJ-X2には、VFOモード、プリセット(PRESET)モード、メモリー(MR)モードの3つの運用モードがあります。

VFOモード …… [▲/▼]キーで周波数を設定するモードです。

プリセットモード …… AMラジオ、FMラジオ、TV1～62チャンネルの周波数があらかじめセットされています。

メモリーモード …… あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。

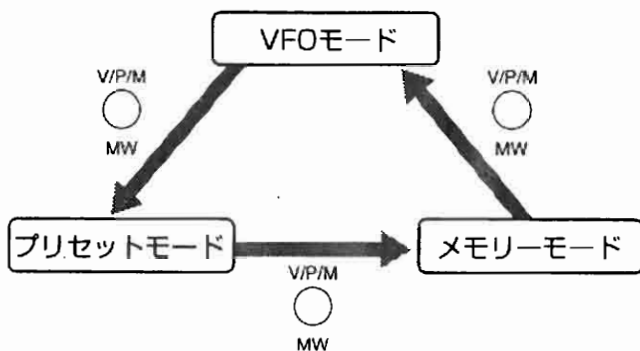


### メモ

イージーモードでは、メモリー登録はできません。メモリー登録をするには、エキスパートモードに切り替えてください。詳細は、「エキスパートモードへの切り替え」(P.32)、「メモリー機能」(P.33)をお読みください。

## ■運用モードの切り替え

[V/P/M (MW)]キーを押すことに、図のようにモードが切り替わります。



### メモ

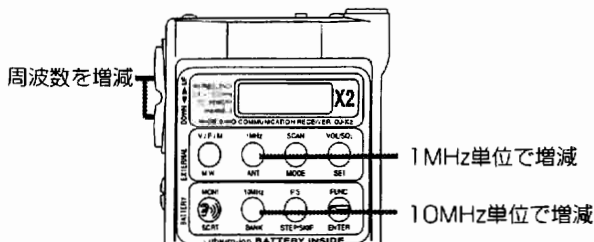
メモリーモードに何も登録されていないときは、メモリーモードはスキップされ、VFOモード→プリセットモード→VFOモード…の順に切り替わります。



## 周波数の設定

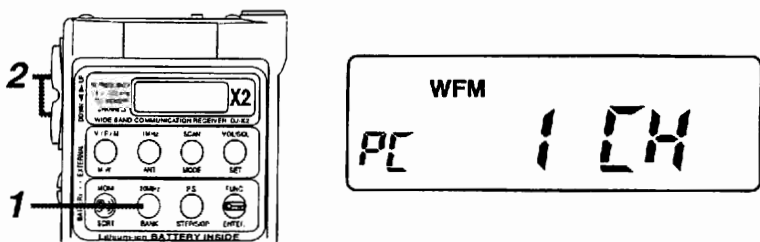
### ■ VFO モードでの設定

- ▶ [▲/▼]キーを押すと、周波数が1ステップ単位で増減します。
- ▶ [1MHz (ANT)]キーを押しながら[▲/▼]キーを押すと、1MHz 単位で周波数が増減します。
- ▶ [10MHz (BANK)]キーを押しながら[▲/▼]キーを押すと、10MHz 単位で周波数が増減します。



### ■ プリセットモードでの設定

- 1 [10MHz (BANK)]キーで聴きたいバンド帯を選択します。  
[10MHz (BANK)]キーを押すごとに、バンド帯がAM ラジオ → FM ラジオ → TV → AM ラジオ…の順に切り替わります。



- 2 [▲/▼]キーで周波数(TVの場合はチャンネル)を増減します。



#### メモ

- ▶ AM ラジオの場合は、ディスプレイ上部に「AM」と表示されます。
- ▶ FM ラジオ、TVの場合は、ディスプレイ上部に「WFM」と表示され、その下にFM ラジオの周波数またはTVのチャンネルが表示されます。

## スキャン機能

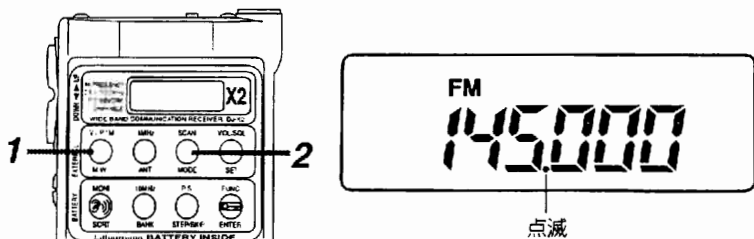
スキャンとは、周波数を周期的に変化させて受信し、信号の出ている周波数をキャッチする機能です。

DJ-X2には、次のスキャン機能があります。

- VFOスキャン ……VFOモードで、信号の出ている周波数を探し出します。
- プリセットスキャン ……プリセットモードで、信号の出ている周波数を探し出します。
- プログラムスキャン ……あらかじめセットされた周波数の上限・下限の範囲内をスキャンします。
- メモリースキャン ……メモリーモード時に、設定したバンク内をスキャンします。

### ■ VFO スキャン

- 1 [V/P/M (MW)]キーで、VFOモードにします。
- 2 [SCAN (MODE)]キーを押します。  
VFOスキャンを開始し、ディスプレイの「。」(小数点)が点滅します。



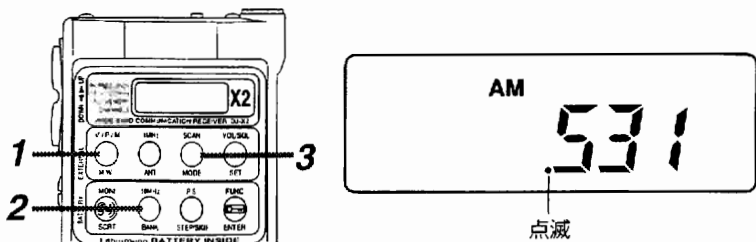
信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

### ■ プリセットスキャン

- 1 [V/P/M (MW)]キーで、プリセットモードにします。
- 2 [10MHz (BANK)]キーで、AMラジオ、FMラジオ、またはTVを選択します。

**3** [SCAN (MODE)]キーを押します。

プリセットスキャンを開始し、ディスプレイの「.」(小数点)が点滅します。



信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

**■プログラムスキャン**

スキャンする範囲の上限と下限を設定して、その範囲内をスキャンします。設定した上限、下限の周波数をプログラムチャンネルと呼び、DJ-X2には20組のプログラムチャンネルを登録できます。

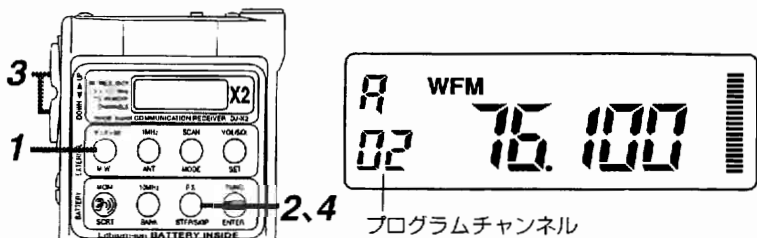
A00とB00、A01とB01というように、上限下限の組み合わせを設定します。設定方法の詳細については、「チャンネルの登録」(P.33)をお読みください。

プログラムスキャンの操作手順は次のとおりです。

**1** [V/P/M (MW)]キーで、VFOモードにします。

**2** [PS (STEP/SKIP)]キーを押します。  
プログラムチャンネルが表示されます。

**3** [▲/▼]キーでプログラムチャンネルを選択します。



同じ番号のAB間をスキャンします。

例えば、A01を選択すると、A01からB01方向にスキャンを開始します。また、B01を選択すると、B01からA01方向にスキャンを開始します。

#### 4 [PS (STEP/SKIP)]キーを押します。

プログラムスキャンを開始します。ディスプレイの「.」(小数点)が点滅し、「PS」が点灯します。信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。



#### メモ

プログラムスキャン時のステップ周波数と電波型式はVFO時の設定によります。

### ■メモリスキャン

メモリーモード時に、特定のバンク内または全てのバンク内をスキャンします。

メモリスキャンには次の3種類があります。

バンクスキャン……………選択した1つのバンク内のみをスキャンします。

バンクリンクスキャン……………スキャンするバンクを最大5つまでリンクさせて、そのバンク内をスキャンします。あらかじめ、リンク設定が必要です。設定方法については、「バンクリンク設定」(P.42)をお読みください。

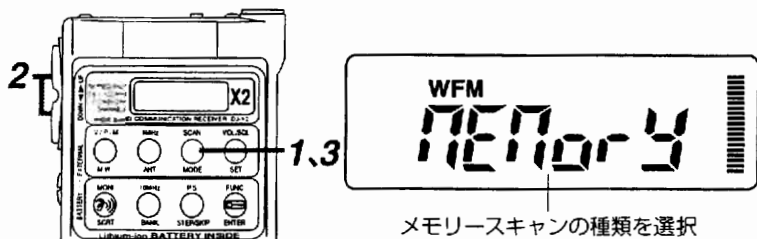
全バンクスキャン……………0～9のバンクがスキャンの対象となります。

メモリスキャンの操作手順は次のとおりです。

#### 1 メモリーモードで、[SCAN (MODE)]キーを押します。

メモリスキャンの種類が表示されます。

#### 2 [▲/▼]キーでメモリスキャンの種類を選択します。



- MEMory ……バンクスキャン
- Link ……バンクリンクスキャン
- ALL ……全バンクスキャン

バンクスキャンを選択したときは、メモリーモードで表示されているバンクが、スキャンの対象となります。

### 3 [SCAN (MODE)]キーを押します。

メモリスキャンを開始し、ディスプレイの「。」(小数点)が点滅します。  
信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。



#### メモ

次の項目は各スキャンに共通の仕様です。

- ・スキャンの開始方向は、最後に操作した方向によって決まります。(プログラムスキャン時を除く。)
- ・スキャン中に[▲/▼]キーを押すと、スキャン方向を変更できます。
- ・スキャンを一時停止するには、[▲/▼]キー、[MONI (SCRT)]キー以外のキーを押します。
- ・スキャン中に[MONI (SCRT)]キーを押すと、押している間スキャンを一時停止しスケルチが聞きます。[MONI (SCRT)]キーを離すとスキャンを再開します。  
スキャンを再開する条件を設定することもできます。詳細は、「タイマースキャン/ビジー  
スキャン設定」(P.44)をお読みください。

## 盗聴機発見機能

盗聴機で使われそうな周波数を登録したメモリーバンクでスキャンさせて盗聴電波を探知する機能です。盗聴機があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。



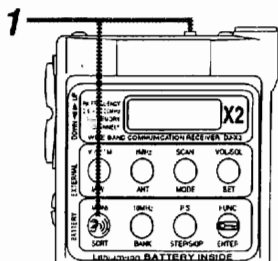
### 注意!

この機能を動作させるときは、必ずイヤホンを外してください。

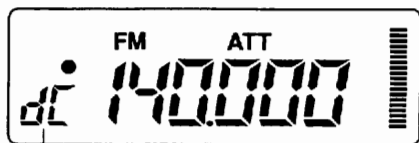
1

[MONI (SCRT)]キーを押しながら電源をONにします。

ディスプレイに「●」が点灯し、設定したメモリーバンクに従って自動的にスキャンを開始します。



盗聴電波があると判断すると、ディスプレイに「dC」が点滅し、スキャンが停止します。



[VOL/SQL (SET)]キーを押し、音量を調整できるようにします。

ハウリングの音が本体の向きで発生するように音量を調整し、盗聴機を探し出します。このときスピーカーの開口部を塞がないでください。



### メモ

盗聴機発見機能の探知感度を設定できます。詳細は「盗聴機発見機能の感度設定」(P.45)をお読みください。



**注意!**

- ・扉や窓を閉めた静かな環境で動作させてください。周りの音が大きいと、盗聴機を発見しにくくなります。
- ・電波状況により、正確に動作しないことがあります。
- ・減電圧の状態では、正常に動作しません。必ず内蔵のリチウムイオン電池を満充電にするか、EDH-27 を使用する場合は、新しいアルカリ乾電池で供給してください。
- ・この機能はハウリングの有無により盗聴電波を探知するため、動作中に大きな音が出る場合がありますが、故障ではありません。
- ・検知できる範囲は盗聴機の種類にもよりますが、8畳から10畳程度の部屋です。

**盗聴発見機能を解除するには?**

一度電源をOFFにし、[MONI (SCRT)]キーを押しながら電源をONにします。

**キーロック機能**

同じ設定で受信、待ち受けし続けたいときなどに、誤操作を防止するため、一時的にキー操作をできなくする機能です。

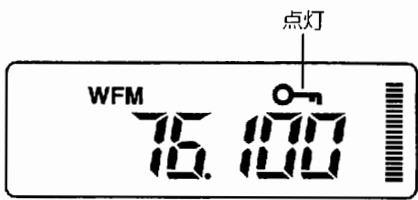
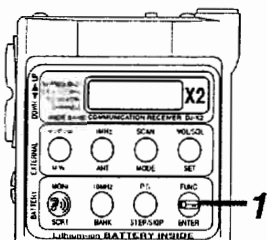
キーロック中でも次の機能は操作できます。

- ・モニター機能
- ・音量、スケルチの調整
- ・キーロックの解除

キーロックの設定手順は次のとおりです。

**1** [FUNC/ENTER]キーを約1秒間押し続けます。

キーロックが設定され、ディスプレイにキーロック中を示すマークが点灯します。



**キーロックを解除するには?**

もう一度、[FUNC/ENTER]キーを約1秒間押し続けます。キーロックが解除され、キーロック中を示すマークが消えます。

## リセットのしかた

メモリーの登録内容や、各種設定などを消去し、初期設定に戻すことができます。

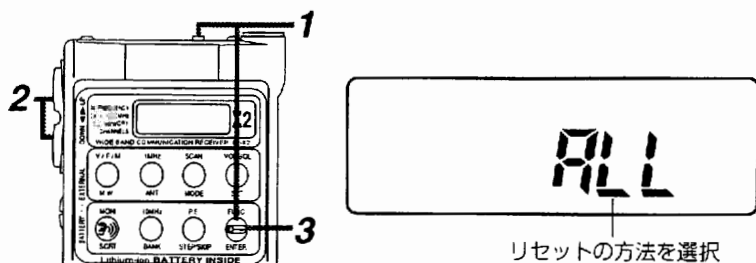
リセットには、次の2つの方法があります。

パートリセット(PART) ……………メモリーの登録内容は保持し、それ以外の各設定内容をリセットします。

オールリセット(ALL) ……………メモリーおよび各設定内容を全てリセットします。  
(プリセットの登録内容はリセットできません。)

リセットの手順は次のとおりです。

- 1 [FUNC/ENTER]キーを押しながら、電源をONにします。  
ディスプレイに「CAnCEL」と表示されます。
- 2 [▲/▼]キーでリセットの方法を選択します。  
「CAnCEL」、「PART」、「ALL」から選択します。リセットをキャンセルしたいときは、「CAnCEL」を選択します。



- 3 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
リセットを実行します。



### メモ

- ・イージーモードからリセットする場合は、パートリセットしかできません。
- ・エキスパートモードからリセットした場合は、イージーモードに戻ります。



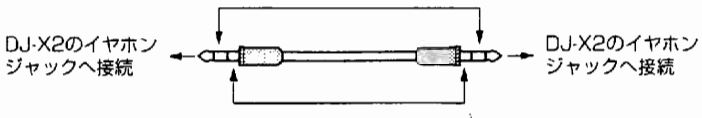
## クローン機能

クローン機能とは、1台のDJ-X2に設定したメモリーや設定の内容を、他のDJ-X2に転送し、同じ設定内容にする機能です。

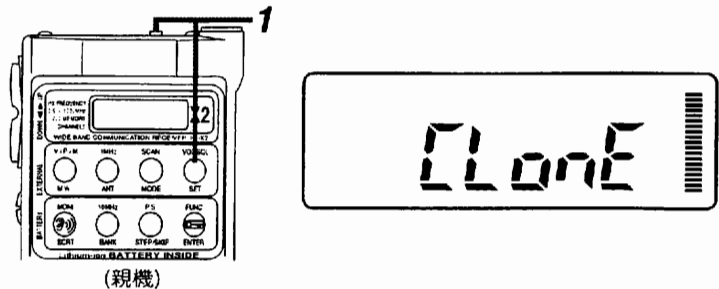
クローン機能を実行すると、親機(クローン送信側)の全てのメモリー、設定内容が子機(クローン受信側)にコピーされます。

クローン機能の操作手順は次のとおりです。

- 1 親機(クローン送信側)と子機(クローン受信側)両機の電源を OFF にします。
- 2 2台のDJ-X2のイヤホンジャックをクローンケーブルで接続します。



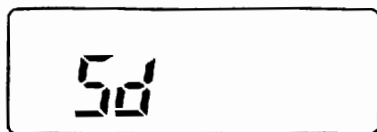
- 3 親機を、[VOL/SQL (SET)]キーを押しながら電源を ON にします。ディスプレイに「CLonE」と表示されます。



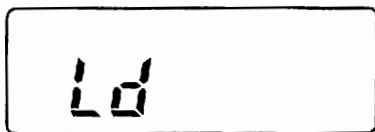
- 4 子機の電源を ON にします。

## 5 親機の[▲]キーを押します。

クローンを開始し、親機のディスプレイには「Sd□□□□」、子機のディスプレイには「Ld□□□□」と表示されます。



(親機)



(子機)

クローンが正常に終了すると、両機のディスプレイに「PASS」と表示されます。電源をOFFにし、もう一度ONにすると通常どおりに使えるようになります。



### 注意!

- ・データの送受信中はケーブルを抜かないでください。
- ・クローン機能を実行すると、子機のデータは全て親機のデータに更新されてしまいます。ご注意ください。
- ・「PASS」表示のあと、クローンケーブルを抜いたときや、相手側の電源を切ったときなどに「CoMErr」が表示されますが、問題なくクローンされています。

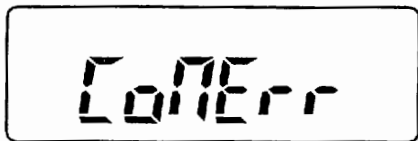
### 「Error」と表示されたときは?

転送中に不正なデータが送られた場合は、両機のディスプレイに「Error」と表示されます。親機の[▲]キーを押すと、クローンを再開します。



### 「CoMErr」と表示されたときは?

接続上の不具合が発生した場合は、両機のディスプレイに「CoMErr」と表示されます。親機の[▲]キーを押すと、クローンを再開します。



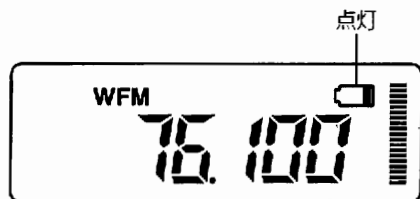
### 続けて別のDJ-X2(子機)にもコピーするには?

クローン機能終了後、親機はそのままで別の子機につなぎ替えます。親機の[▲]キーを押すと、クローンを開始します。

## バッテリー表示機能

電池の残量が少なくなると、ディスプレイに電池マークが点灯します。電池マークが点灯すると、すぐに使えなくなります。

乾電池を新品に交換するか、内蔵リチウムイオン電池を充電してください。



# 第 3 章 エキスパートモードを使いこなそう

DJ-X2には、「イーजीモード」と「エキスパートモード」の2つのモードがあります。エキスパートモードでは、次の機能が使えます。

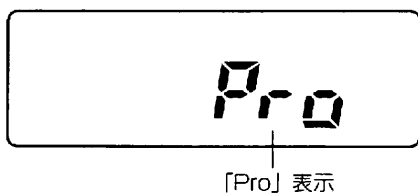
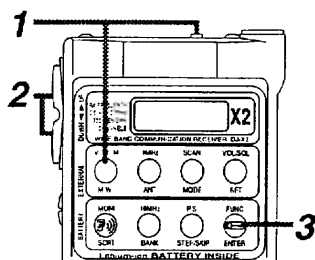
メモリー機能	(P.33)
アンテナの設定	(P.36)
電波型式の設定	(P.37)
チャンネルステップの設定	(P.38)
メモリースキップ機能	(P.39)
音声反転秘話機能	(P.40)
セットモード機能	(P.41)

この章では、エキスパートモードでの便利な機能について説明します。

## エキスパートモードへの切り替え

工場出荷時には、DJ-X2 はイーजीモードに設定されています。エキスパートモードに切り替える手順は次のとおりです。

- 1 [V/P/M (MW)]キーを押しながら、電源をONにします。  
ディスプレイに「EASy」と表示されます。
- 2 [▲/▼]キーを押します。  
表示が「Pro」に変わります。



[▲/▼]キーを押すごとに「Pro」→「EASy」→「Pro」…と表示が変わります。表示を「Pro」に合わせます。

- 3 [FUNC/ENTER]キーを押すと、エキスパートモードに切り替わります。

イーजीモードに戻すには？

手順2で表示を「EASy」に合わせて[FUNC/ENTER]キーを押します。



## メモ

エキスパートモードで設定した内容は、イージーモードに切り替えたあとも有効ですが、イージーモードで設定内容を変えることはできません。

## メモリー機能

メモリー機能とは、よく使う周波数などを登録し、用途に応じて呼び出し受信する機能です。登録された周波数をチャンネルと呼びます。

DJ-X2には、メモリーバンクチャンネル、プログラムチャンネル、サーチバスメモリーチャンネル、プライオリティーチャンネルの4種類のメモリー機能があります。

### ■メモリーの種類と使い方

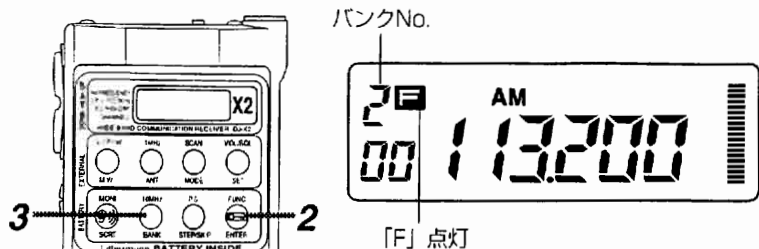
- メモリーバンクチャンネル……メモリーモードで呼び出すチャンネルです。70ch×10バンク 合計700chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくこと、簡単に呼び出すことができます。
- プログラムチャンネル……プログラムスキャン機能に使用します。20組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。(P.23)
- サーチバスメモリーチャンネル……使いたくない周波数を登録しておくこと、VFOスキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100chの周波数を登録できます。
- プライオリティーチャンネル……プライオリティー機能に使用します。8chの周波数を登録できます。(P.46)

### ■チャンネルの登録

チャンネルの登録方法は次のとおりです。

- 1 VFOモードで登録したい周波数を設定します。
- 2 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。

### 3 [10MHz (BANK)]キーでバンクを選択します。



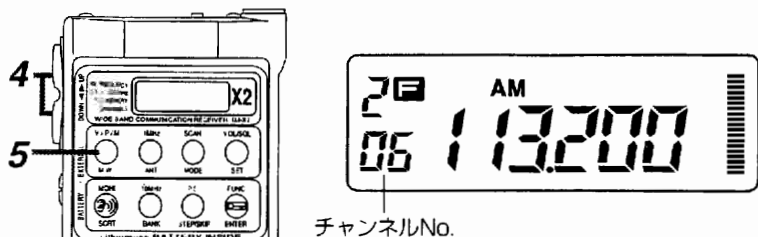
10MHz (BANK)キーを押すごとに、ディスプレイ左上の表示が「0」→「1」→「2」→「3」→「4」→「5」→「6」→「7」→「8」→「9」→「A」→「P」→「J」→「0」…の順に変わります。

バンクとメモリーの種類の関係は次のとおりです。

- 0～9 : メモリーチャンネル用バンク
- A、B : プログラムスキャンチャンネル用バンク
- P : プライオリティーチャンネル用バンク
- J : サーチバスメモリーチャンネル用バンク

用途に応じて登録するバンクを選択します。

### 4 [▲/▼]キーでチャンネルを選択します。



バンクの種類によって登録できるチャンネル数は次のとおりです。

- バンク0～9 . 00～69
- バンクA、B . A00～B19
- バンクP . 00～07
- バンクJ . 00～99

### 5 [V/P/M (MW)]キーを押します。

チャンネルに周波数が登録されます。



#### メモ

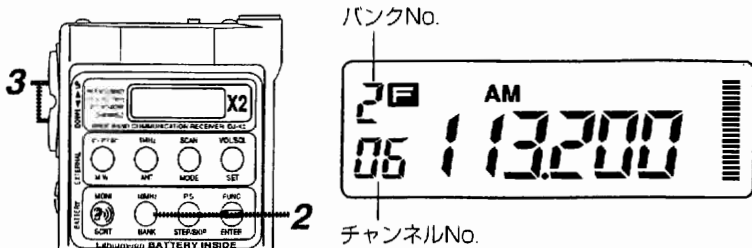
メモリーの追加増設はできません。

初期設定ではメモリーの上書きはできません。詳細は「メモリー上書き設定」(P.46)をお読みください。

## ■チャンネルの呼び出し

チャンネルに登録された周波数を呼び出す方法は次のとおりです。

- 1 [V/P/M (MW)]キーで、メモリーモードにします。
- 2 [10MHz (BANK)]キーでバンクを選択します。
- 3 [▲/▼]キーでチャンネルを選択します。

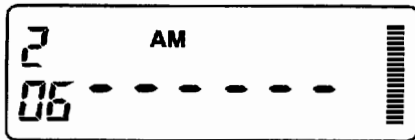


登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

## ■チャンネルの消去

チャンネルに登録された周波数を消去する方法は次のとおりです。

- 1 [V/P/M (MW)]キーでメモリーモードにします。
- 2 消去したいチャンネルを選択します。
- 3 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。
- 4 [V/P/M (MW)]キーを押します。  
選択したチャンネルが消去されます。



### メモ

登録したチャンネルを一括で消去することもできます。詳細は、「リセットのしかた」(P.28)をお読みください。

## アンテナの設定

DJ-X2は、受信する周波数帯に応じてアンテナの種類が切り替えられます。DJ-X2のアンテナには次の3種類があります。

外部アンテナ …… 付属のSMA型アンテナです。

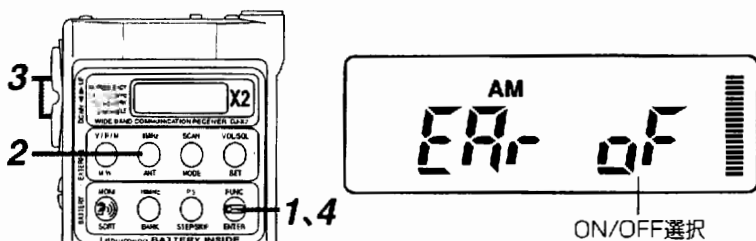
イヤホンアンテナ …… イヤホンのコードがアンテナになります。

バーアンテナ …… 本体内蔵のアンテナです。AMラジオ帯の522～1620kHzを受信します。

アンテナを切り替える手順は次のとおりです。

### ■ 522～1620kHzを除く周波数帯の場合

- 1 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。
- 2 [1MHz (ANT)]キーを押します。  
ディスプレイにイヤホンアンテナを示す「EAR」のON/OFFが表示されます。



- 3 [▲/▼]キーでイヤホンアンテナのON/OFFを選択します。

EAR on : イヤホンアンテナで受信します

EAR oF : 外部アンテナで受信します。

(初期設定はOFFです。)

- 4 [FUNC/ENTER]キーを押します。

アンテナ設定を完了します。



#### メモ

イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。



## ■ 522 ~ 1620kHz の周波数帯の場合

P.36の手順1、2で、ディスプレイにバーアンテナを示す「bAr」のON/OFFが表示されます。

bAr on : バーアンテナで受信します。

bAr of . 外部アンテナで受信します。

(初期設定はONです。)

[FUNC/ENTER]キーを押して、設定を完了します。

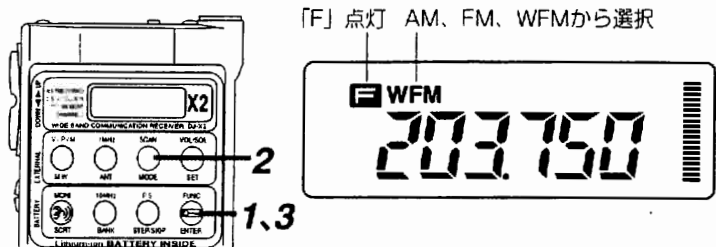
## 電波型式の設定

電波型式(MODE)をAM、FM、WFMから選択できます。

手順は次のとおりです。

**1** [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。

**2** [SCAN (MODE)]キーで、電波型式を選択します。



「F」点灯 AM、FM、WFMから選択

[SCAN (MODE)]キー押すごとに、表示が「AM」→「FM」→「WFM」→「AM」…の順に変わります。

**3** [FUNC/ENTER]キーを押します。  
電波型式の設定を完了します。

### 電波型式を変更できないときは？

チャンネルステップをAUTOに設定しているときは、電波型式を変更できません。詳細は、次の「チャンネルステップの設定」をお読みください。

## チャンネルステップの設定

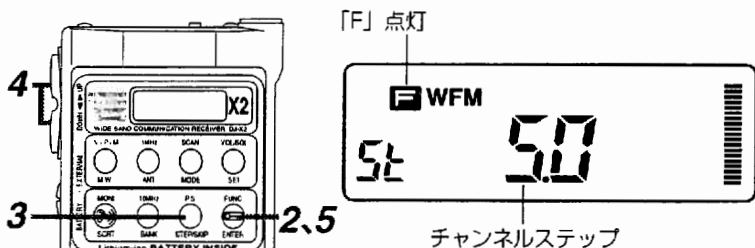
チャンネルステップとは、周波数を調整するときのワンステップあたりの増減量です。VFOモードで周波数を調整するとき、[▲/▼]キーを1回押すごとに何kHz増減するかを設定します。

手順は次のとおりです。

**1** [V/P/M (MW)]キーで、VFOモードにします。

**2** [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。

**3** [PS (STEP/SKIP)]キーを押します。  
現在選択されているチャンネルステップが表示されます。初期設定は「AUto」です。



**4** [▲/▼]キーでチャンネルステップを選択します。

5、6.25、8.33、10、12.5、15、20、25、30、50、100、AUTOから選択します。単位はkHzです。

**5** [FUNC/ENTER]キーを押します。

チャンネルステップの設定を完了します。



### メモ

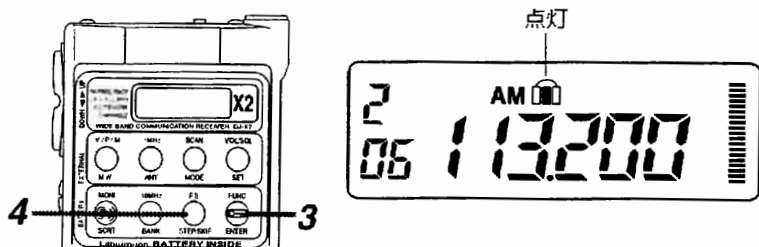
- ・AUTOは、各周波数で適正のチャンネルステップと電波形式を自動的に設定する機能です。AUTOに設定されているときは、電波形式の設定を変えることはできません。
- ・AMラジオ帯のチャンネルステップは9kHzに固定されています。

## メモリスキップ機能

メモリスキップ機能とは、メモリスキャン時に、設定したメモリーチャンネルをスキップさせる機能です。

スキップさせたいメモリーチャンネルを設定する手順は、次のとおりです。

- 1 [V/P/M (MW)]キーで、メモリーモードにします。
- 2 スキップさせたいメモリーチャンネルを呼び出します。
- 3 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。
- 4 [PS (STEP/SKIP)]キーを押します。  
メモリスキップが設定されます。



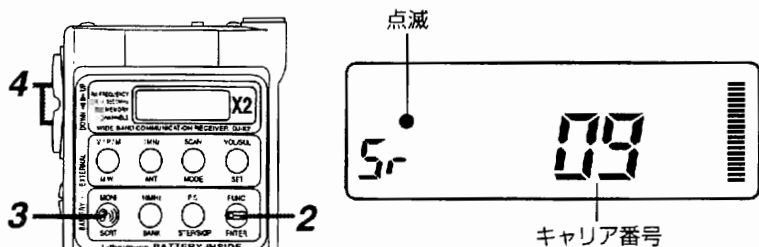
メモリスキップを解除するには?

メモリスキップを解除したいメモリーチャンネルを呼び出して、上記の手順3、4の操作をします。

## 音声反転秘話機能

音声反転秘話機能が音声を反転している信号を、元の状態に戻す機能です。  
手順は次のとおりです。

- 1 音声反転している信号の周波数に合わせます。
- 2 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。
- 3 [MONI (SCRT)]キーを押します。  
音声反転秘話機能が動作し、ディスプレイ左上に「●」が点滅します。  
ディスプレイに音声反転用のキャリア番号が表示されます。  
[▲/▼]キーでキャリア番号を変更できます。



- 4 [▲/▼]キーで、キャリア番号を合わせます。  
キャリア番号は01～17から選択します。キャリア番号を変更しながら、音声認識できる状態に合わせます。



### メモ

[FUNC/ENTER]キーを押すと、設定したキャリア番号で音声反転秘話機能を動作させながら受信周波数を変更できます。

音声反転秘話機能を解除するには？

[FUNC/ENTER]キーを押してから、[MONI (SCRT)]キーを押します。

## セットモード機能

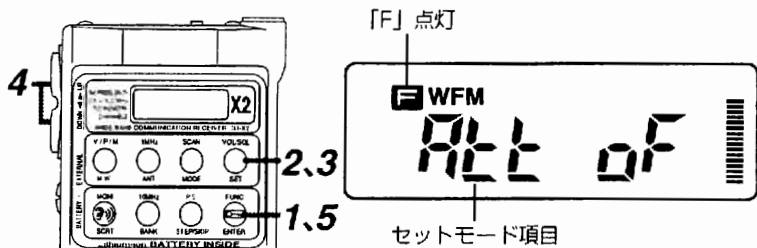
各種機能をより使いやすくするために、DJ-X2 をカスタマイズする機能です。  
次の項目の設定ができます。

ATT(アッテネータ)機能	(P.42)
バンクリンク設定	(P.42)
BEEP(ビーブ音)機能	(P.43)
LAMP(ランプ)機能	(P.43)
タイマースキャン/ビジースキャン設定	(P.44)
BS(バッテリーセーブ)機能	(P.44)
APO(オートパワーオフ)機能	(P.45)
盗聴機発見機能の感度設定	(P.45)
メモリー上書き禁止	(P.46)
PRIO(プライオリティ)機能	(P.46)

### ■各項目の設定方法

セットモードの各項目は、次の方法で設定します。

- 1 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
ディスプレイに「F」が点灯します。
- 2 [VOL/SQL (SET)]キーを押します。  
セットモードに入り、項目名が表示されます。



- 3 [VOL/SQL (SET)]キーで設定する項目を選択します。  
[VOL/SQL (SET)]キーを押すごとに、項目の表示が次のようになります。  
「Att」→「bL」→「bBEEP」→「LP」→「tIMEr (または bUSy)」→「bS」→  
「APO」→「tAP」→「ov」→「Pr」→「Att」...
- 4 [▲/▼]キーで設定値を変更します。
- 5 [FUNC/ENTER]キーを押します。  
設定を完了します。

各設定の詳細は、次をお読みください。

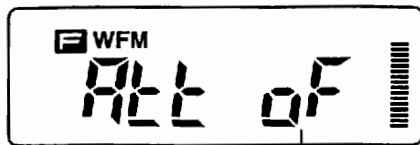
## ■ ATT(アッテネータ)機能

他のチャンネルからの影響を軽減する機能です。

受信している信号が他のチャンネルの強力な信号の影響を受けているような場合に使用します。

ATT 機能を ON にすると受信信号レベルで約 20dB 減衰します。

セットモードで「Att」の項目に合わせます。



ON/OFF 選択

- ・ [▲/▼]キーで、ON/OFF を設定します。  
初期設定は OFF です。

## ■ バンクリンク設定

リンクした複数のバンクをスキャンする「バンクリンクスキャン」のための設定です。

10 組あるバンクの中から 5 バンクまでリンクできます。

セットモードで「bL」の項目に合わせます。



バンクリンク番号 バンク

- ・ [▲/▼]キーで、バンクリンク番号を選択します。
- ・ [10MHz (BANK)]キーで、バンクリンクしたいバンクを選択します。バンクリンク番号 0 ~ 4 に対して、リンクしたいバンクを 1 つずつ割り当てます。



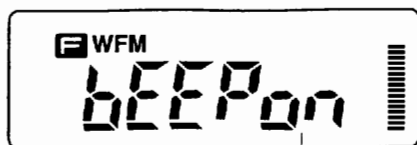
### メモ

- ・ バンクリンクに 1 バンクしか入っていない状態でバンクリンクスキャンをした場合、設定しているバンクリンクの 1 バンク分だけをスキャンします。
- ・ バンクリンクスキャンの詳細は、「メモリスキャン」(P.xx)をお読みください。
- ・ 盗聴機発見機能時のスキャンには、バンクリンクの設定が反映されます。
- ・ 盗聴機発見機能は、バンクリンクされたメモリーの中から盗聴器を探します。  
盗聴機発見機能を使用する場合は、必ず対応するバンクをリンク設定してください。

## ■ BEEP(ビーブ音)機能

キー操作時のビーブ音のON/OFFを設定します。

セットモードで「bEEP」の項目に合わせます。



ON/OFF選択

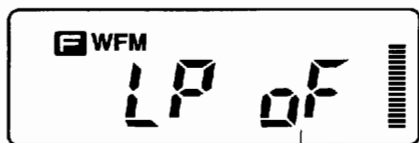
- ・ [▲/▼]キーで、ON/OFFを設定します。
- ・ 初期設定はONです。

## ■ LAMP(ランプ)機能

ディスプレイの照明のON/OFFを設定します。

ON設定時は、いずれかのキーを操作するとディスプレイの照明が点灯します。無操作状態が5秒間続くと、自動的に消灯します。

セットモードで「LP」の項目に合わせます。



ON/OFF選択

- ・ [▲/▼]キーで、ON/OFFを設定します。
- ・ 初期設定はOFFです。

## ■タイマー/ビジーキャン設定

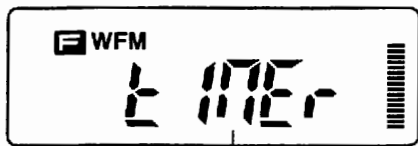
スキャンの再開条件を設定します。

スキャン中に信号を受信するとスキャンが一時停止しますが、この設定によりどのようなときにスキャンを再開するかを設定できます。

タイマー/ビジーキャン(tIMEr) ……信号を受信中でも5秒経過するとスキャンを再開します。

ビジーキャン(bUSy) ……信号を受信しなくなるとスキャンを再開します。

セットモードで「tIMEr (または bUSy)」の項目に合わせます。



タイマー/ビジーキャン選択

[▲/▼]キーで、タイマー/ビジーキャンを設定します。

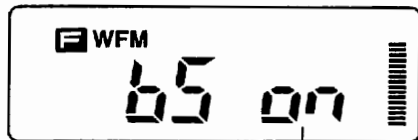
初期設定はタイマー/ビジーキャンです。

## ■BS(バッテリーセーブ)機能

電池を長持ちさせるための機能です。

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消耗を少なくします。

セットモードで「bS」の項目に合わせます。



ON/OFF選択

・ [▲/▼]キーで、ON/OFFを設定します。

・ 初期設定はONです。

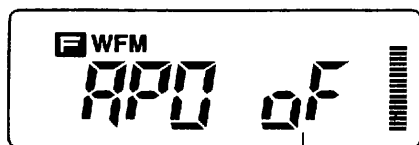


## ■ APO(オートパワーオフ)機能

電源を切り忘れても、自動的に電源を切る機能です。

電源が切れるまでの時間は30分、60分、90分、OFFから選択できます。OFFに設定するとAPO機能は動作しません。

セットモードで「APO」の項目に合わせます。



時間を選択

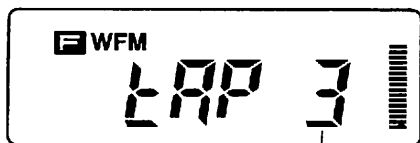
[▲/▼]キーで、時間を設定します。

- ・初期設定はOFFです。
- ・スキャン中はAPO機能は動作しません。

## ■ 盗聴機発見機能の感度設定

盗聴機発見機能動作時の探知感度を1(高)~5(低)から選択します。

セットモードで「tAP」の項目に合わせます。



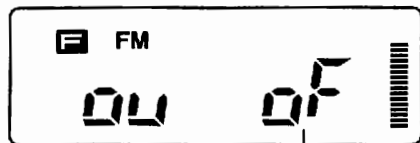
感度を選択

- ・[▲/▼]キーで、感度を設定します。
- ・初期設定は3です。

### ■メモリー上書き設定

すでに登録されているメモリーチャンネルを別の内容に上書きするか、しないかの設定ができます。

セットモードで「ov」の項目に合わせます。



ON/OFF選択

- ・ [▲/▼] キーで上書き可/不可の設定をします。  
「ov on」 : 上書き可  
「ov oF」 : 上書き不可
- ・ 初期設定は上書き不可 (OFF) です。

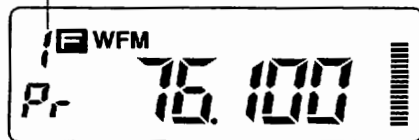
### ■PRIO(プライオリティー)機能

2つの周波数を交互に受信し、待ち受けを効率良くする機能です。

VFOモードを5秒受信すること、プライオリティーチャンネルを0.5秒受信し、受信状態をチェックできます。

セットモードで「Pr」の項目に合わせます。

プライオリティーチャンネル



- ・ [▲/▼]キーで、プライオリティーチャンネルを0ch～7chから選択します。
- ・ 初期設定はOFFです。
- ・ プライオリティー動作中は、スキャンはできません。
- ・ プライオリティーチャンネル側で受信した場合は、受信時間が2秒延長されます。

プライオリティーを解除するには？

プライオリティー動作中に、[SCAN (MODE)], [PS (STEP/SKIP)], [FUNC (ENTER)]のいずれかのキーを押します。

# 第 4 章 付 録

## トラブルシューティング

使用中にトラブルが起きた場合は、次のことをご確認ください。

また、処置をしても解決しない場合は、リセットすることで解決する場合があります。

トラブル	考えられる原因	対処方法
電源が入らない。	電池が消耗している。	乾電池を入れ替える（リチウムイオン電池は充電する）。
	内蔵/外部バッテリー切り替えスイッチの間違い。	内蔵/外部バッテリースイッチを確認して切り替える。
スピーカーから音が出ない。	音量レベルが低すぎる。	音量を上げる。
	イヤホンが接続されている。	イヤホンをはずす。
	スケルチが閉じている。	スケルチレベルを調整、またはOFFにする。
感度が悪い。	スケルチレベルが高すぎる。	スケルチレベルを調整、またはOFFにする。
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターをOFFにする。
	アンテナ切り替えスイッチが適当でない（SMA、EARアンテナ、BARアンテナ）。	使用するアンテナの種類を確認して切り替える。
受信音が悪い。	周波数が合っていない。	周波数ステップを変えて、周波数を調整する。
	電波型式が合っていない。	適切な電波型式に設定する。
	電池が消耗している。	乾電池を入れ替える（リチウムイオン電池は充電する）。
周波数などの設定ができない。	キーロックがかかっている。	キーロックを解除する。
異常な表示や動作になる。	CPUが誤動作している。	電源を入れ直す（解決しない場合はリセットする）。
	電池が消耗している。	乾電池を入れ替える（リチウムイオン電池は充電する）。

## アフターサービスについて

### ■保証書

保証書には必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

### ■保証期間

お買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

保証書の規定にしたがって修理いたします。

### ■保証期間が経過した場合

お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。

アフターサービスについて、ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

## 定 格

### ■一般仕様

周波数動作範囲	: 0.522~999.995MHz
受信周波数範囲	: 0.522~999.995MHz
電波型式	: FM、WFM、AM
アンテナインピーダンス	: 50Ω不平衡
アンテナ端子	: SMA型
電源電圧	: DC3.8V (内蔵リチウムイオン電池) DC4.5V (EDH-27使用時)
接地方式	: マイナス接地
消費電流	: 待ち受け時 約80mA バッテリーセーブ時(1:4) 約25mA
使用温度範囲	: -10~+60℃
周波数安定度	: ±5ppm (-10~+60℃)
外形寸法	: 58(W)×90(H)×15(D)mm (突起物を除く)
重 量	: 約85g (リチウムイオン電池含む)

### ■受信部

受信方式	: トリプルスーパーヘテロダイン
中間周波数	: 1st 248.45MHz、2nd 38.85MHz、3rd 450kHz
選択度	: AM/FM -6dB/12kHz以上、-60dB/30kHz以下 WFM -6dB/150kHz以上
受信感度	: FM/WFM 12dB SINAD、AM 10dB S/N
typ.値	
FM	: 30~108 0.63uV (-4dBu) 136~222 0.4uV (-8dBu) 222~470 0.5uV (-6dBu) 470~770 0.56uV (-5dBu) 770~1000 0.71uV (-3dBu)
WFM	: 76~108 3.2uV (10dBu) 175~222 2.2uV (7dBu) 470~770 3.2uV (10dBu)
AM	: 0.5~1.62 7.1uV (17dBu) 1.62~30 1.4uV (3dBu) 108~136 2.0uV (6dBu) 222~330 1.8uV (5dBu)

## 操作早見表

操作内容	キー操作	参照
音量調整	[VOL/SQL (SET)]キー、[▲/▼]キーで調整	P.18
スケルチレベルの調整	[VOL/SQL (SET)]キー、[▲/▼]キーで調整	P.18
周波数の設定	[▲/▼]キー [1MHz (ANT)]+[▲/▼]キー [10MHz (BANK)]+[▲/▼]キー	P.21
受信モニター	[MONI (SCRT)]キー	P.19
VFOスキャン	[SCAN (MODE)]キー	P.22
プリセットスキャン	[SCAN (MODE)]キー	P.22
プログラムスキャン	[PS (STEP/SKIP)]キー [▲/▼]キーで選択後[PS (STEP/SKIP)] キーで開始	P.23
メモリスキャン	[SCAN (MODE)]キー [▲/▼]キーで選択後[SCAN (MODE)] キーで開始	P.24
イージー/エキスパートモード切り替え	[V/P/M (MW)]キーを押しながら電源ON [▲/▼]キーで選択	P.32
VFO/プリセット/メモリーモードの切り替え	[V/P/M (MW)]キー	P.20
メモリー/プリセットバンクの切り替え	[10MHz (BANK)]キー	P.21 P.34
メモリー/プリセットチャンネルの選択	[▲/▼]キー	P.21 P.34
メモリーチャンネルの書き込み	[FUNC/ENTER]+[V/P/M (MW)]キー	P.33
アンテナの選択	[FUNC/ENTER]+[1MHz (ANT)]キー [▲/▼]キーで選択	P.36
電波型式の切り替え	[FUNC/ENTER]+[SCAN (MODE)]キー (522~1620kHzとチャンネルステップをAUTOに設定しているときは変更できません)	P.37
チャンネルステップの変更	[FUNC/ENTER]+[PS (STEP/SKIP)] キー [▲/▼]キーで選択	P.38
メモリースキップ設定	[FUNC/ENTER]+[PS (STEP/SKIP)] キー	P.39
キーロックのON/OFF	[FUNC/ENTER]キー 1秒間	P.27
音声反転秘話機能のON/OFF	[FUNC/ENTER]+[MONI (SCRT)]キー	P.40
音声反転秘話キャリア番号の変更	[▲/▼]キー	P.40

操作内容	キー操作	参照
セットモードに入る	[FUNC/ENTER]+[VOL/SQL (SET)]キー	P.41
セットモードの項目選択	[VOL/SQL (SET)]キー	P.41
セットモードの内容選択	[▲/▼]キー	P.41
リセットモードに入る	[FUNC/ENTER]キーを押しながら電源ON	P.28
リセットの種類を選択	[▲/▼]キー [FUNC/ENTER]キーでリセット	P.28
盗聴機発見機能のON/OFF	[MONI (SCRT)]キーを押しながら電源ON	P.26
クローンモード設定 (親機)	[VOL/SQL (SET)]キーを押しながら電源ON、 [▲] キーでスタート	P.29